

高温・乾燥が続く場合はハダニ類の多発に注意！！

1 気象概況

(1) 8月の気象

会津若松市の令和4年7月の平均気温は26.1℃（平年比+2.1℃）、合計降水量は93.5mm（平年比48%）でした。8月上旬時点において、土壌は乾燥傾向にあるとみられます。

(2) 8月以降の気象

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台 7/28 発表）によれば、8月上旬から9月上旬の気温は平年より高く、降水量は平年並みになっています。

2 果樹の生育概況

リンゴ「ふじ」の果実肥大状況は、概ね平年並みに推移しております。一方、「つがる」では摘果作業が遅れた園地も多く、平年よりも果実がやや小さい状況です。

カキ「会津不身知」の果実は平年より大きく推移しています。

モモ「あかつき」は7/31頃に1回目の収穫が始まり、門田選果場では8/8頃から出荷が始まる予定です。

表1 各樹種の果実肥大状況（8月1日調査、暦日比較、平年は1986～2021年の平均）

樹種 品種	リンゴ				モモ		カキ	
	ふじ		つがる		あかつき		会津不身知	
調査地点	会津若松市 北会津町		会津若松市 北会津町		会津若松市 北会津町		会津若松市 門田町	
項目	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	側径
果実径 (mm)	56	62	61	70	69	81	36	53
平年比 (%)	100	101	98	99	100	108	116	119

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア 高温対策

高温により土壌が乾燥しやすくなっていますので、かん水をこまめに実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌では、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。なお、水分の競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう。

なお、高温下ではとくにハダニ類（図1）が急激に増加しやすくなります。1葉あたり成虫1匹以上みられたら防除が必要です！こまめにルーペ等で確認し、必要があ

れば速やかに防除を実施しましょう。

イ 病害対策

今後の定期的な降雨により、各種病害の感染が急激に拡大する恐れがあります。定期散布の散布間隔が開かないよう注意しましょう。なお、こまめに見回りを行い、感染源となる病斑や発病葉、発病果は速やかに処分しましょう。



図1 ルーペで見たハダニの卵

(2) リンゴ

ア 落果防止剤の散布

「つがる」などの落果しやすい品種では、落果防止剤を散布しましょう（表2）。

表2 リンゴの収穫前落果防止剤

農薬名称	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
ストップール液剤	1,000～ 1,500倍	300～600L /10a	収穫開始予定日の25～7日前(但し2回散布の場合は10日程度間隔をあける)	2回 以内
ヒオモン水溶剤	1,000～ 2,000倍	300～600L /10a	収穫開始予定日の21～4日前	2回 以内

※ ストップール液剤は果肉の軟化を促進するため散布はなるべく1回に留めます。

※ ヒオモン水溶剤は、果実の成熟促進作用が弱く、収穫前の果実軟化の心配が少ないとされます。つがる、きおう、王林、紅玉、陽光で落果防止効果が確認されています。

イ 早生品種の収穫前管理

「つがる」等の早生種では8月中下旬頃から実施しますが、高温が続く場合は日焼け果の発生が心配されます。葉摘みを行う場合は日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行います。果面の30%程度が着色したら、果実に密着している葉を2～3枚摘み取るようにしましょう。

ウ 中晩生種の栽培管理

樹勢、果実の大きさ、果形、日焼けの有無等に応じて修正摘果を実施し、適正着果に努めましょう。

エ 病害虫防除

一部園地で黒星病や褐斑病、ハダニ類（図1）の発生が確認されています。薬剤散布は散布ムラの無いよう丁寧に実施するとともに、散布間隔が空きすぎないように注意しましょう。

病害の罹病部位は伝染源になりますので、園外に持ち出して処分しましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

新梢管理は、7～9月下旬にかけて3回程度に分けて実施します。一度にせん除すると、枝の二次伸長を招く恐れがあります。せん定痕等から新梢が密生している樹では、強すぎる新梢、弱い新梢、逆行している新梢を中心に間引いてください。なお、日焼け果を予防するため徒長枝はある程度残すようにしましょう。

イ 着色管理

トップスコア・リン（肥料）を8月中下旬と9月上中旬の2回、1,000～2,000倍で葉面散布することで、着色の向上が期待できます。**例年着色の悪い園地では散布を実施しましょう。**

ウ 病害虫防除

ヒメコスカシバの発生が見られる場合、8月中旬～下旬に、薬液が芽や葉にかからないように注意しながら主幹部、主枝及び亜主枝の分枝部に、ガットサイドS（収穫45日前まで、2回以内）1.5倍、またはトラサイドA乳剤（収穫30日前まで、2回以内）200倍を散布して下さい。なお、使用する前に必ず収穫時期（収穫前日数）を確認しましょう。

(4) モモ

ア 収穫前管理（晩生種）

「川中島白桃」、「ゆうぞら」といった晩生種の収穫期も、平年より早まることが予想されます。適期に修正摘果を実施しましょう。なお、収穫予定日の10日前頃には、夏季せん定、支柱立て、枝つり、反射シートの設置を遅れないように実施しましょう。

今後、曇天が続く場合、有袋栽培では着色不良とならないよう、除袋をはじめとする着色管理作業を計画的に行うようにしましょう！

イ 病害虫防除

せん孔細菌病は多くの園地で小規模ながら発生が確認されており、予断を許さない状況です。せん孔細菌病には秋期防除の実施が効果的です。忘れずに実施しましょう。

(5) ブドウ（シャインマスカット）

ア 袋掛け・カサ掛け

摘粒作業が終わり次第、袋掛け・カサ掛け（図2）を行いましょ。急激な温度上昇による高温障害を回避できます。なお、袋掛けでは通常、白色の袋を使用しますが、シャインマスカットでは緑色の袋を使用すると、果皮色ムラが少なくなりま



図2 カサ・袋掛けをした果房

す。できるだけ気温の上がない曇天の日に実施しましょう。

イ ハクビシン対策

糖度が上昇してくる8月以降は、ハクビシン被害(図3)が発生しやすくなります。鳥獣害対策(ハウスの入り口や隙間に防虫ネットや防風ネット等を張る、電気柵を設置する等)を徹底しましょう!



図3 ハクビシンによる食害

(6) ナシ

「豊水」では着果過多になると、休眠期に紫変色枝枯症の発生が多くなります。幸水同様の着果量(10,000果/10a)として、枝の充実を図りましょう。なお、「幸水」では収穫期が平年より早まる見込みです。収穫遅れとならないよう作業準備を進めましょう。

(7) スモモ・プルーン

ア 収穫

気温が高いと日持ちが悪くなりますので、早朝の涼しい時間帯に収穫しましょう。

- 農業災害が多発しています。農業保険(農業共済・収入保険)に加入しましょう!
- 非常に暑い日が続いています。作業者は熱中症になりやすいので、なるべく休憩を頻繁にとりながら、水分をこまめに補給しましょう。
- 会津若松市内において人身事故が発生し、熊の目撃も増えています。一人で農作業をする際は熊鈴を携帯、手を叩いて人がいることをアピールしましょう。